

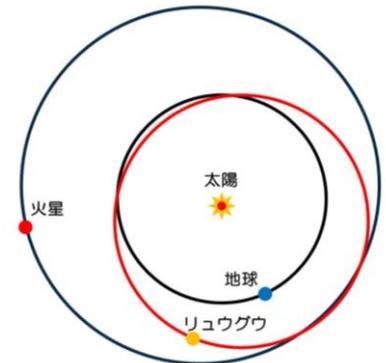
## はやぶさ2

～ いよいよ地球に帰還 ～

今、はやぶさ2が地球に向かっています。帰還予定は12月です。はやぶさ2のこれまでの活躍をみてみましょう。

### リュウグウへ

「はやぶさ2」は2014年12月3日、種子島宇宙センターからH-2A ロケット26号機で打ち上げられました。1年間は地球に似た軌道に沿って太陽のまわりを公転し、2015年12月3日に地球スイングバイを行い、地球から約3億km離れた「小惑星リュウグウ」に向けて飛び立ちました。リュウグウが調査対象となったのは、太陽系の起源と生命の原材料物質を解明するためです。目的地の小惑星リュウグウは大きさが約900mで、そろばんの珠(たま)の形に似ています。



リュウグウの軌道

### リュウグウでの活動

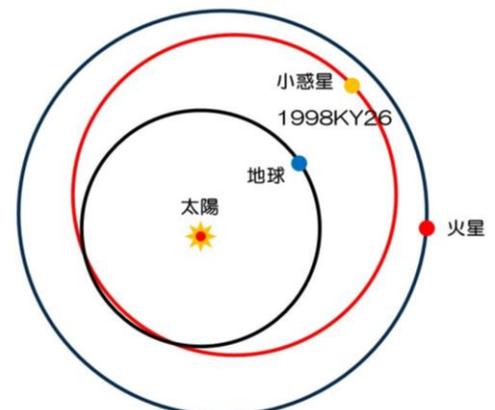


はやぶさ2は2018年6月27日にリュウグウに到着しました。主な調査内容は、2018年9月21日に探査用ローバー「ミネルバII-1」を分離しました。小惑星表面に降りた世界初のローバーで、小惑星表面で自律的に移動し、写真撮影を行いました。2018年10月下旬に最初のタッチダウンを行う予定でしたが、表面が想定以上にでこぼこだった為、延期されました。そして、2019年2月22日に1回目のタッチダウンを行い、表面物質の採取に成功しました。

1回目の着陸精度はわずか1mでした。2019年4月には、衝突装置(インパクト)を撃ち込みました。7月11日に2回目のタッチダウンを行い、地下物質の採取に成功しました。これにより、表面と地下物質の比較をすることが出来ます。2回目のタッチダウンは着陸精度がわずか60cmという、まさにピンポイントで行われました。日本の技術のすばらしさがわかった瞬間でもあります。10月3日には「ミネルバII-2」を分離しました。機体内部に不具合が発生したため、表面の観測活動は行わず、重力場を調べるミッションに切り替えました。これらの調査活動を行い、2019年11月13日に地球に向けて出発しました。

### はやぶさ2のこれから ～ さらなる長い旅路へ ～

はやぶさ2は今年の12月6日に帰還する予定です。サンプルを格納したカプセルを、オーストラリアのウーメラ砂漠に向けて分離します。分離後は、軌道修正を行い地球から離脱します。太陽のまわりを約11周してから目的地に向かいます。次の目的地は「小惑星1998KY26」です。この小惑星は地球と火星の間を公転しています。小型小惑星の地球衝突による被害の軽減や、太陽系のより遠方への探査に必要な知見の獲得を目指します。到着は11年後の2031年7月の予定です。これから100億キロの長い旅が始まります。



1998KY26の軌道